

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 ：東北中央自動車道 福島JCT～米沢 <small>とうほくちゆうおうじどうしやどう ふくしま よねざわ</small>	事業区分 ：新直轄	事業主体 ：国土交通省 東北地方整備局	
起終点 ：自：福島県福島市笹谷上畑 <small>ふくしま ふくしま ささや かみはた</small> 至：山形県米沢市万世町桑山 <small>やまがた よねざわ ばんせい くわやま</small>	延長 ：28km		
事業概要 ：東北中央自動車道は、福島県相馬市を起点とし福島市、山形県米沢市、山形市を経て秋田県横手市に至る延長約268kmの高規格幹線道路である。福島JCT～米沢間は東北中央自動車道の一部を形成し、福島市と米沢市をつなぐことで経済・産業基盤のネットワークを構築するとともに、国道13号通行止め時の代替路線の確保に寄与することを目的としている。			
H10年度事業化 ：H10年度都市計画決定 H13年度用地着手 ：H16年度工事着手			
全体事業費 ：1,549億円 事業進捗率 ：39% 供用済延長 ：0km			
計画交通量 ：14,400台/日			
費用対効果分析結果	B/C ：(事業全体) 1.3 (残事業) 2.3	総費用 ：(残事業)/ (事業全体) 795/1,421億円 総便益 ：(残事業)/ (事業全体) 1,819/1,819億円 <small>(事業費：741/1,367億円) (走行時間短縮便益：1,444/1,444億円)</small> <small>(維持管理費：54/54億円) (走行経費減少便益：301/301億円)</small> <small>(交通事故減少便益：74/74億円)</small>	基準年 ：平成20年度
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 【残事業】 交通量変動：B/C=2.5(交通量 +10%) B/C=2.1(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=2.1(事業費 +10%) B/C=2.5(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=2.1(事業期間 +20%) B/C=2.5(事業期間 -20%)			
事業の効果等 ： <ul style="list-style-type: none"> ・国土・地域ネットワークの構築(当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する) ・災害への備え(緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する) 他11項目に該当			
関係する地方公共団体等の意見 ：東北中央自動車道(福島JCT～米沢)は高規格ネットワークの骨格を形成するとともに、国道13号通行止め時の代替路線確保等に重要な役割を果たすことが期待されており、福島県知事をはじめとする首長で構成される福島県東北中央自動車道建設促進期成同盟会等から早期整備の要望を受けている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ：この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 ：事業進捗率は39%であり、現在、調査設計、用地買収及び工事を推進している。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ：平成20年代後半の全線2車線供用を目指しており、事業進捗にかかる問題はない。福島JCT～米沢間(L=28km)については、平成20年代後半の全線2車線供用を目標に事業推進を図る。			
施設の構造や工法の変更等 ：橋梁上部工形式を見直し、鋼材量を減らすことでコスト縮減を図る。 切通しを計画している区間について、トンネルとすることでコスト縮減を図る。			
対応方針 ：事業継続			
対応方針決定の理由 ：以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
事業概要図			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。